

第4章

自由記入

1. 18～64 歳区民調査

(1) その他

※調査結果で「その他」の回答が5%以上のものについて、代表的な記述を掲載した。

問 16-1 地域のどのようなところに愛着を感じるか

- ・緑が豊かである。
- ・就学先と保育園に近く便利である。
- ・引越してきた当時の近所の方々がとても良い方ばかりだったから。
- ・交通の便が良い。

問 20-3 住民同士が自主的に支えあったり、助けあったりする必要がないと思う理由

- ・仕事があるため、したくても自分の生活でいっぱい。
- ・トラブルが不安である。
- ・親が近隣に住んでいるから。
- ・マンションなどでは必要だと思うけれど、一軒家が多いので深くはつきあえない。
- ・住民がどんな人か分からない。事件が起こるか不安でそこまで信用していない。

問 21-1 どのような地域の行事や活動に参加しているか

- ・学校で行う地域活動
- ・学校PTAなどが主催する行事
- ・ボランティア（活動児童館で絵本のよみきかせ）

問 22-1 ボランティア活動をはじめたきっかけ

- ・教会ボランティア参加のため。
- ・家族がやっているから。
- ・他にやる人がいないから仕方なく。
- ・地域を活性化したい。

問 22-2 どのようなボランティア活動に参加しているか

- ・小学校の花壇ボランティア
- ・マンションの理事会によるさまざまな活動
- ・震災被災地の復興支援活動
- ・イベントスタッフ等

問 31-1 災害時に学校などの避難所に避難する場合に不安に思うこと

- ・避難所に人が集中して、入りきれないのではないかと心配である。
- ・子どもが騒ぐ、泣くなどしたときなどに他の人に迷惑をかけないかと心配。治安が低下し、女の人の立場が弱くなると聞いたことがある。
- ・まだ幼い子どもがいるので他の人に迷惑をかけないか、また、子どもたちのストレスも心配
- ・ペットの災害時対策が不安である。
- ・自宅、学校で避難所が分かれるので、近くにいるのに家族と行動を共にできず不安である。
- ・避難先の治安・防犯体制に不安がある。

(2) 自由意見

※主な意見について掲載した。分類の（ ）内は該当する意見の件数である。

① 高齢者・介護について (18)

- ・ひとり暮らしの高齢者に対する見守りについて、訪問だけでなく、それぞれの高齢者が生活に張りが出るような機会を作ってもらいたい。
- ・足腰が不自由な高齢の知人の携帯電話が故障したので、代わりにショップに持って行ったら、他人だからだめだと手続きを断られた。ライフラインを維持するという事は難しい。
- ・高齢者を介護する家族へのサービスやサポートがとても重要になってくると思います。介護する側、たとえ親であっても、ストレスや身体の疲れなどから、病気になってしまったり、金銭的にもかなり負担がのしかかってくるため、介護される高齢者も申し訳ないという気持ちを持つことになったりする。高齢者を2名以上抱える場合も少なくはないと思うので、その条件によって金銭的な援助、又は税金の控除などを検討するべきだと感じます。

② 障がい者について (12)

- ・内部的な障がい（見た目では分からない障がい）を持っている人にも暮らしやすい環境が大切だと思う。最近配布されている「ヘルプマーク」を持っている方も多いので、特別な支援はなくても周りが気にかける環境は大事だと思う。
- ・重度の障がいのある息子を介護しているので、自分に何かあったときにどうしようかいつも不安です。ほとんど一人で世話をしている状態なので、すぐ預けられる所もなく困っていますが準備もしていないのが現状です。
- ・ケア対象一人ひとりの生育、生活背景、その人らしさを尊重して慮ることを学んだ専門家を職員に増やしてほしい。心身の支援に配慮していただきたい。
- ・障害サービス窓口を一本化してほしい。就学すると（こども発達センター）わかばの家が使えなくなり、相談できる場所を失う。義務教育が修了するとさらに相談場所が減ってしまう。わかばの家、さぼーとぴあと分けるのではなく、1ヶ所で相談できることを望む。

③ 子育てについて (19)

- ・今は子どもに手がかからなくなりましたが、小学1年生のころ、学校と学童で2つの新しい環境になるので精神的に不安定になりました。共働き家庭の子どものデリケートな時期に、サポートしてくれるカウンセラーのような人が学童にいれば、もう少し助かったと思います。働く女性が無理をしなくては働き続けることができない環境が少しでも改善されればと思います。
- ・現在子育て中です。児童館へは行っていますが、もっと赤ちゃんと出かけられるような区のイベントなどがあると良いと思います。
- ・子育て支援がまだ弱い。共働きだと子どもが病気になったときに預けられる人がいない。病児保育は遠く、空きもなし、小学生だと預け先なし。常に気を張り詰め、困っています。
- ・子育て支援について、まだまだ行政のサービスが足りないと感じる。東京に出て頼る家族が少ない中での子育ては不安も多いと思うし、金銭面でのサービスの充実度（一時保育の預かり料の補助、保育料の助成拡張等）がもっと必要だと思う。助産師さんの家庭訪問等は助かるので、続けていただきたい。少子化対策のためにも働きながら、金銭面で安心して、子育てできる制度づくりが大切だと思う。大田区にはもっとがんばってほしい。

④ 情報・相談 (6)

- ・現在、2歳と0歳7か月の娘の子育て中です。出産に伴う子どもの世話などで、とても温かく相談に乗っていただきました。これからも気軽に相談できる窓口であってほしいと思います。
- ・ひとり暮らしなので、今後高齢になったときに、安全・安心して暮らし続けられるような体制づくりを進めてほしい。今から準備したり、情報を集めておきたいので、既にあるサービス、機能などはどんどん発信してほしい。行政によっては、シルバーサービスが機能的に運営されている。大田区も積極的に進めてほしい。元気なうちは、サービスを提供する側として貢献できると思う。
- ・年金受給などを節目に、どんなところが利用できるのか、困り事別にどこに行ったらいいかわかるリーフレットのようなものがあれば、それを目安に動けるかと思っています。自分が利用する側になれば探すこともなかなか難しくなるので、元気なうちから知識として知っていたい。まだ現役であれば、安心につながる。
- ・健康づくり課から配信されるメールサービス（きずなメール）などのように、保健・福祉サービスについての情報もメール配信やTwitterなどがあれば、わかりやすく情報を拾いやすいと思います。情報は欲しいけれど、どうやって収集すればいいのかわからないという住民の方は多いと思いますので、ご検討をよろしくお願いいたします。

⑤ まちづくり (21)

- ・坂と階段の多い地域です。将来、運転免許を返上した後の「足（アクセス）」が心配です（買い出し・病院・その他もろもろ）。
- ・公園の遊具がどんどん小さく魅力的でないものになっていることが残念でなりません。木登りをしていると危ないからと叱られ、公園で遊んでいるとうるさいと言われる。子どもは一体どこで遊ばいいのでしょうか。大型遊具を撤去して何も無い公園は安全で魅力的ですか？こんなアンケートにお金をかけるのであれば、子育て、障がい、低所得者などへの福祉のお金にあてるべきではないのかと感じます。
- ・道路の段差、車いす移動の時の不便さ、介護をする者にとっても不便なまちです。主人の介護、自分自身も足の手術をして大変な思いをしたので、弱い者も安心して住めるまちにしてほしい。
- ・最近、大型マンションの建設により世帯が増えていきます。その急な増加に対して、福祉、保育、学校、病院などの生活環境を守る行政の動きが全く見えないのが不安だし、不満です。保育園は少なく、学校は生徒があふれ、病院は待ち時間が長くなり買い物をする場所も不足し、電車には人が乗り切れず、車は渋滞する。どうするのか、しっかり考えてもらいたい。

⑥ 地域での見守り・支えあい (4)

- ・働く世代は家族を守る事が精一杯。定年退職後から他人の助けが必要となるまでの間は、他人のために何かできると思う。それがまた自分の生きがいになると思う。その時、自分ができること、自分が必要とされることが何かしらあるはずなので、地域からの積極的な情報提供があったら良いと思う。定年退職後のボケ防止のためにも、社会の役に立つことが大切と考える。子育て中（保育園時代）、地域の方に大変お世話になったので。
- ・高齢者が多いように感じるが、何か小さなことでもお手伝いできることがあれば知りたい。
- ・ご近所にひとり暮らしの方がいるかどうかを共有しておくことは大切だと思います。災害な

ど、何かの折りにひと声かけようという意識を持っていれば、安心できるはず。ささやかだけれど、こういうことを地域で徹底しておきたい。

- ・共働き、子育て中のため、地域活動に関わる余裕はあまりありません。また、過度な地域からの干渉は避けたいです。小学校での活動など、子育ての中で地域と関わっていれば充分と考えています。アンケートでは、「参加したくない活動」「支援してほしいこと」なども確認したほうがよいと思います。

⑦ 地域活動・ボランティア (15)

- ・ボランティアに興味はあるが、小さい子どもを連れて参加できるのかわかりません。
- ・こども食堂のようなスタイルで、人が集まれるような場を公的な援助で増やしてほしい。地域福祉に関する勉強会を行ってほしい。そして、そこから地域に役立つプロジェクトを立ち上げたりすることで活性化につなげてほしい。
- ・ボランティアは近所だけでなく、同じ区内の離れた地域でもできるようにしてほしい。緊急の時はやむを得ないが、ご近所の方にプライバシーが知られることを望まない方もいるので。
- ・子どもがいないので、適切な対応ができるか自信がありません。地域の交流も自ら行動に出るのはなかなか難しいところです。ただ、きっかけがあって、困っている方がやってほしい事がわかれば自分にできる範囲で関わりたいと思います。
- ・子育てをしています。地域と密着しているとあまり感じられません。高齢の方が、見回りをしてくださっているのも、子育てするまでは知りませんでした。地域の方々の目は、子どもにとって大事です。学校を通じてでもいいので、活動して下さっていることをもう少し住民に知らせてもいいと思います。高齢化社会に向けて、自分でも考えていかなければと思いました。

⑧ 防災・防犯 (4)

- ・防災について、セットの商品購入はよく目にしますが、避難所での実際の生活はどういうものか、身近な物で代用できるものについてもっと教えていただきたいです（ハンドブックだけでは危機意識をあまり持てません）。区報やHPでシリーズのような形で掲載したら多くの人の目にとまると思います。経験者の話を聞けると良いなとも感じます。
- ・防災無線の内容が聞き取りづらい（エコーがかかって内容がわからない）。電話で聞き直しができるのは知っているが、HP上に文字で表示するなど、もう少し簡単な確認方法があれば良いと思う。大気汚染医療費助成について、平成30年4月から自己負担が発生するのが不満。実家も現在の住居も首都高速道路沿いで、室外で洗たく物を干すと黒ずんだりする状態は変わっていないのに、自動車との因果関係が証明できないという理由だけで一方的に決められてしまうのはおかしい。
- ・交通の便もよく非常に便利なまちと思っていますが、駅前の雰囲気あまり良くないと感じます（特に夜）。夜間でも安心して歩けるようなまちなみになることを希望します。

⑨ 行政への要望 (38)

- 区の窓口の方が、十分返答できないことがあります。経験値もあるのではないと思いますが、そういう時こそ、職員同士の連携で誠意ある返答がほしいものです。
- 区役所の課の責任者がすぐに関わり、課題があっても途中でうやむやになっていると感じる。又責任者が変わることで一から説明し、理解してもらうまでに時間がかかる。責任を持って取り組んでほしいし、それぞれの部署で職員が専門知識をもっと蓄えてほしいと思います。
- 区役所の駐輪場が地下にもぐる形になっているのが不便です。小さい子どもを電動自転車に乗せたまま下にもぐることは危険なので子どもを下ろしたいのですが、だからといって子どもを下ろしても自分は自転車を持って行かなければならず、子どもが一人でじっと待っているのも難しいです。子どもをほんの1～2分でも係の人に見ていてもらえないか、自転車を下まで押してもらえないかいつも思いますが、結局は仕方なく駅の交番近くの駐輪場を利用したりしています。電動自転車用の駐輪スペースを地上に数台だけでもあるとありがたいなと思います。

2. 65 歳以上区民調査

(1) その他

※調査結果で「その他」の回答が5%以上のものについて、代表的な記述を掲載した。

問 21-1 近所づきあいをしていない理由

- ・挨拶をする程度のつきあいで満足している。
- ・高齢になったため外出しません。
- ・引越してきて10年、最初からマンションの住人は顔を合わせても横を向く。たとえば、廊下で、マンションの入口で、ゴミ捨て場で、皆さん冷たい。
- ・居住年数が短く、あまりなじみがない。

問 26-1 どのような地域の行事や活動に参加しているか

- ・絵画の教師
- ・児童館、学校ボランティア
- ・老人会
- ・自治会・町会の活動に参加
- ・図書館、老人施設での朗読ボランティア

問 26-3 地域の行事や活動に参加できない理由

- ・仕事が不定期なため。
- ・施設外に自由に出歩くことができないため。
- ・要介護の家族を抱えている。
- ・今は介護を終えたばかりで、他の事は考えられない。

問 27-1 ボランティア活動をはじめたきっかけ

- ・子にその姿を見てほしくて。
- ・たまたま区報を見て。
- ・私が60歳のとき、無事子どもが育てられたので恩返しの気持ちで始めました。
- ・自分が世話になった病院だから。
- ・頼まれて。

問 27-2 どのようなボランティア活動に参加しているか

- ・環境問題の解決をめざす活動
- ・町の美化、文化祭の手伝い
- ・被災地等の犬たちのお散歩や世話
- ・コーラスで童謡を広めること
- ・職能サークル（団体）の運営

問 33-1 災害時に学校などの避難所に避難する場合に不安に思うこと

- ・避難所の収容人数不足が不安である。
- ・場所が遠い。あえて避難地区を通過しなければならない。
- ・家族を連れて避難が必要なので大変不安である。
- ・避難所自体の安全性（立地面とか建物の耐久性）が不安である。
- ・ペットがいるので心配である。
- ・避難場所を知らない。

(2) 自由意見

※主な意見について掲載した。分類の()内は該当する意見の件数である。

① 高齢者・介護について (63)

- ・フレイル予防や体力、健康の維持増進のために無料又は安価で長期に続けられる運動施設が広域的にほしい(結果として、医療費や介護費用等の減少につながるはず)。大田区は対策が貧相だと思う。予約制の時限の体操案内は見かけるが、誰でもやりたいときに続けられるシステムが必要。
- ・大田区いきいきしごとステーション、シニアクラブ、シルバー人材センター、防災行政無線電話応答サービスなど、はじめてこうした場所・システムがあることを知りました。今後活用させていただきます。やはり老後は不安がいっぱいですが、今後積極的に行政にも相談しようと思っています。
- ・高齢者の福祉の視点から、区立図書館の役割が非常に高い。文化的に質の高い生活をする拠点、孤立防止、新しい情報の入手、高齢者の静かな楽しみ(生きがい)、老化予防などなど。もっともっと予算をまわして充実してほしい。
- ・現在、妻が高次脳機能障害(要介護3)で自宅介護中です。ひとり暮らし高齢者は登録見守り制度があり、老々夫婦にはない。民生委員活動の実態が良く把握できない。民生委員、地域福祉課、地域包括支援センターとの関連も。できる限り自宅にて介護を考えている関係で、不安事を聞いていただける窓口又は訪問者に一番良い方法を知らせていただきたいと思う。

② 子育てについて (5)

- ・現在、南馬込児童館で南馬込小学校を主として1・2年生に囲碁を教えております。又年に一回行われる文化祭でもお手伝いをさせていただいております。小学生の低学年生と接することの楽しさを味わっております。

③ 相談・情報 (32)

- ・私は行政の経験を活かし、社会福祉法人のボランティア的な非常勤をしていますが、福祉関係は範囲が広く、設問の中でも知らないことがありました。区の媒体を利用して広報に努めていただければありがたいです。
- ・我が家は99歳の祖母と後期高齢者、前期高齢者夫婦の3人暮らし。幸いにも特段の病もないため、公的福祉サービスに関する情報には疎い状況です。できれば一連の保健福祉サービス(公的な)制度、機関について体系的にとりまとめた資料があると便利。いつ、どんなときに、どういった制度(機関)の支援が可能か。
- ・困ったときに、とりあえず気軽に相談に行けるところをたくさん作って、ちょっと不自由でも頼りにできる所・人がいると助かるのではないかと思います。

④ まちづくり (28)

- ・今後ますます高齢者が増加します。一人ひとりが健やかに、自分の事はできるだけ自分で出来るよう体調を整えることが大切だと思います。またどこか悪くなられた方も家に閉じこもることなく車いすでも自分で、あるいはどなたかに押ししていただきながら外に出られるよう、バリアフリーの充実の必要性を感じます。
- ・道路上の案内板が非常に少ないと思う。外へ散歩に出ると1日1回は人から道を聞かれます。メイン道路ぐらいには設置してはどうですか。公衆便所、電話ボックス、AED、交番の位置

を書き込んでほしい。又、公衆便所も少ないように思えます。

- ・高齢者の移動をさらに円滑化するため、コミュニティ・バス路線の増設をお願いする（その代わりに、高齢者の自動車免許返上、自転車利用の制限を推進）。介護施設ごとの高齢者搬送車輛をできる限り共用化し、朝の混雑時の搬送迎を少なくする等の工夫の余地ありと史料。

⑤ 地域での見守り・支えあい (13)

- ・先般、自宅前の一軒家にひとり住まいする高齢の女性に出入りが確認されず、声をかけても玄関が開かないので救急車を呼んだ事態が起こった。結果的には、立ち上がれずに過ごされていたようで無事であることが確認された。近年は隣近所の様子が分からなくなっている。災害のときなど一層心配される事態だと思われる。これを考えるとやはり昔風の向う三軒両隣は少くとも声をかけ合う仲になっておきたいと思う。そのためのきっかけづくりを、区で指導していただくと大変ありがたいと思っております。
- ・現在は心身ともに健康であるが、病気になったり、動けなくなったときには福祉サービスのお世話になりたいと思っている。地域に健康な人でも気軽に通える交流の場があるといいと思っている。
- ・人間としての尊厳、そこにはプライバシーの保護も含まれると思うので、あまり他人の生活に踏み込むことは私にはためられません。「手助け」とか「援助」は、家族を除いた場合、それを仕事としてやっている方々をお願いしたいと思います。プロとして関わる方々の生活が成り立つよう、もちろん報酬を当事者も支払い、その不足分については福祉サービスのための税金にて賄えればと思います。

⑥ 地域活動・ボランティア (22)

- ・75歳になりますが、大変元気で日常生活を過ごしております。少しでも社会参加の場があれば、さらに健康寿命も延びると思っています。働く場所（ボランティアで充分）と責務があると、適度なストレスを得て、諸々なこと（健康づくりや食事の面）を気にするようになる。基本は無料で働ける場所と、社会からの要求が適合し、いつまでも元気にすごせると良いです。
- ・私は老人クラブに入っていますので、仲間も多くいますし、毎日忙しいながらもがんばっています。クラブ会員だけでなくほかの方の世話もできることを幸せに思っています。
- ・今まで幸いなことに福祉には縁なく過ごしてきました。支援を受けるより何かお手伝いができないかと思いつつ、きっかけが見つけれません。
- ・現在、寿会として見守り活動をしています。案外嫌がられます。何とか理解してもらえないものか。

⑦ 防災・防犯 (11)

- ・地震などの災害時に無事に避難し、避難先で安全に過ごせるのか本当に心配です。人口も建物も密集しているので、現実には災害が起きたときどうなるのか。また当マンションは外階段に手すりがなくエレベーターが止まると下に降りることができません。
- ・問35の「防災行政無線電話応答サービス」のことは知りませんでしたので、早速書きまして電話のところに置きました。
- ・災害が起きたとき、避難所で生活できるか大いに不安があります。現在、肺に水がたまらぬよう利尿剤を投与されているので1時間ごとにトイレに行きます。薬を飲まないと呼吸困難になるので利尿剤はやめることができません。近くの避難所での生活は困難なので、自宅によう

と思っています。

- いつどこで、災害等に遭遇するかわかりません。掲示板は多く、ある程度の情報はわかりますが、できれば掲示板の近くに避難場所を常時掲示してあれば、出先でも安心かと思います。

⑧ 行政への要望 (44)

- 空き家や空き地の有効利用をお願いします。
- 互助の精神は貴重だが、まず個々人が自分の健康・安全を維持できる環境の整備が行政の必要不可欠な事項で、税金の使途はこれを優先項目とすべきである。弱者に対する対策は、必要最低限度の施設、仕組みを設定し、地域の差なくこれを措置した後に、将来への備えとして、レベルの向上に進むという順序立てが必要。公共の環境整備は、ゴミ回収、粗大ゴミの処理、歩道の確保、自動車のスピード・騒音の規制など、地域住民が安全かつ衛生的、文化的生活を確保できるようにしてほしい。
- 地域力ではぐくむという姿勢ではなく、もっともっと区が率先して活動の拠点を作ったり、場・機会をつくる必要があります。特別養護老人ホーム等、高齢者の不安をなくすべく施設の増加、充実を進めてほしい。
- 施設や設備、制度をつくった後、それらが有効に機能しているかの検証をお願いします。もし有効に機能していないことが判明したら、できるだけ速やかに改善していく仕組みを整えていただきたく思います。

3. 地域福祉組織・団体調査

(1) その他

※調査結果で「その他」の回答が5%以上のものについて、代表的な記述を掲載した。

問3 設立のきっかけ

- ・高齢者の健康維持、社会参加事業を行うため。
- ・施設の体操教室を指導しているコーチと相談して、引きこもりがちな障がい者を少しでも手助けしたいとの気持ちから。
- ・日本で働くためにビジネス日本語を必要とする外国人を支援するため。
- ・日本の大道芸の保存・伝承・発展を主目的として。
- ・地域の青少年育成のため。

問4 主な活動資金について

- ・介護給付費等
- ・社会福祉協議会からの補助金
- ・小学校の総合学習の謝礼金
- ・資源回収

問5 団体の活動場所

- ・マンションの管理棟
- ・商店街事務所
- ・所有車両

問6-1 現在取り組んでいる主な活動

- ・日本で働く外国人のビジネス日本語支援
- ・まちづくり（アート事業、情報誌発行、まちあるきなど）
- ・小学校・学童のサマースクール支援

問6-2 今後重視したい活動

- ・防災対策で要支援者の取り組み
- ・児童教育

問8 困っていること

- ・活動協力者が集まらない。
- ・助成金の使用方法の見直しが必要と感じている。
- ・ニーズが多く、すべてに応えきれない。
- ・区役所の地域割り
- ・事業に必要な資格者の確保が困難である。

問9-1 連携の必要性を感じる時

- ・コラボしてイベントを行いたいと思うときに、違った分野での活動の団体との連携が必要であると感じる。
- ・「地域で活動」を目的としているので地域他団体との連携が必要である。
- ・日本語支援を必要としている状況を把握したいとき。
- ・ろう者との交流をもっと深めたいとき。

問 11 活動の充実に向けて必要なこと

- ・地域包括支援センターをエリアフリーにする。
- ・ホームページ（オーちゃんネットなど）を積極的に活用する。
- ・活動する場所の確保

問 13 情報発信の方法

- ・図書館内の掲示
- ・自治会掲示板、自治会回覧（毎月）
- ・Youtube
- ・マンションの掲示板
- ・地域包括支援センターからの案内

問 14 情報入手の方法

- ・区立図書館の区政資料・歴史資料
- ・メールマガジンなどWEB
- ・自治会・町会長会議
- ・地域力推進会議

問 15 活動へ単発の参加の状況

- ・事業内容に入所者の個人情報の保護があるため困難である。
- ・おためし参加をしてもらい、常時参加につなげたい。

問 16 行政に対して特に要望することや期待すること

- ・担当及び関係部課の連携や行政全体の認識を高めてほしい。
- ・区割り、地域割りを廃止してほしい。
- ・区の施設がもっと開放的になってほしい。

問 17 地域の問題点や課題

- ・集合住宅住民の地域への無関心
- ・地域＝町会という行政の認識

問 18 地域の課題解決のために地域の方が協力して取り組めること

- ・困っている人を特定し、その方のため集中的に多くの人が助けること
- ・犯罪を犯した人への更生・立ち直り・再犯防止対策
- ・地域への愛を育むこと（住民の地域への無関心がひどすぎる）。地域共生の大切さの啓発
- ・多世代にわたる文化的交流

問 21 地域福祉の担い手を増やす方法

- ・興味のあるテーマの講座を開き地域福祉を周知してもらうようにする。
- ・自身の活動が、その場でストレートに評価されたり感謝されたりする仕組みを作る。
- ・地域で活動できる人材を確保する（町会活動への積極的な参加を求める）。

問 23 行政が力を入れるべき保健福祉施策

- ・行政職員が地域を知る取り組み
- ・地域フリーの行政施策が行える改革

(2) 自由意見

※主な意見について掲載した。分類の()内は該当する意見の件数である。

① 行政への要望 (37)

- ・気軽に参加できる行政の活動があるといいと思います。いろいろな立場の人がいると思うので、いろいろな人が参加できるとありがたいです。
- ・行政の担当が細かく分かれているのは良いですが、それぞれの連携が取れていないと思います。さまざまなイベントがありますが参加する方はいつも同じメンバーです。地域としては、しなければならないことがたくさんあるわりに、内容が重複しているのではと思われます。区、警察、消防など、行政がただ一緒にやっているというのではなく、もう少しまとまってほしいかなと思います。
- ・地域の課題が複雑化しており、解決するための方法やスキルを持った方々も多くの分野にまたがるようになってきているように感じる。区役所の関係部署に相談するとき、多部署にまたがっても対応できるコーディネーターのような方がいると良いように思う。課題を解決する方法を多面的に見て、いろいろな専門家の方や部署の方が関わることで、その活動をしている方々を紹介してもらったり、つないでくださると、地域での支えあいや、地域を超えた支えあいにも発展していけるのではないかと思います。

② 高齢者支援 (23)

- ・地元の特別出張所が担当する行政事務とは別に、本庁の部課が直接住民や住民団体に呼びかけ推進する事業を増やしてほしい。地域包括ケアにより高齢者をサポートするシステムと体制が住民に良く理解されていないので、地域包括ケアセンターが積極的に活動し区民に接近してほしい。高齢者向けのセミナーを増やし、高齢者が活躍できる場を見つける機会をもっと増やしてほしい。シニアステーション、シニアクラブ、いこいの家等の施設や仕組みを整理して、住民が参加しやすいようにしてほしい。
- ・IT支援はこれからのシニアにとって必要な分野だと思う。「シニアがいきいき楽しく暮らす」という面からも行政として積極的に推進してほしい。

③ 地域住民との関係 (21)

- ・地域での防災活動、青少年健全育成、高齢社会への対応など、いろいろな局面に対し地域の住民の関わりあいがなくなってきて、自助・共助が難しくなっている。何とかいろいろな活動を通じて近所の連携がとれるようなプランを共に策定していきたい。又、自治会活動を発信していくホームページやパソコンの活用に対し、使い方アドバイスをいただければありがたい。
- ・活動してまだ年数が経っていない。利用者側が何を必要としているのか、サロンに何を求めているのかなどを見極めながら、地域との関わりを大切に行動しています。ボランティア(5名)も高齢者なので、あまり手を広げず自分たちでできることを家庭的で安らぎのあるサロンをめざしています。
- ・地域活動というと、すぐに既存の町会などに依頼することが多いと思うが、それでは新しい人が入りづらい。どっぷり地域活動に浸かりたいのではなく、月1回さらっと活動したい人などに向けて、区が気軽に参加できる枠組みを作ってくると良いと思う。
- ・私どもの地域は、この十数年で急激に居住者が増えています。まずは、地域の人々が互いを知り合い、地域コミュニティを作り、分かりあうことが大切だと思います。地域住民としても心がけていくべきですが、ぜひ、行政の方々にもご協力をいただきたく存じます。

④ 情報・相談 (19)

- ・地域での支えあい活動の必要性は、多くの住民が理解しはじめたので、行政はこの“芽”を育てる施策をお願いします。まだまだ多くの住民は無関心です。自助・互助の必要性をわかりやすくPRしてください。
- ・当自治会では、積極的に福祉活動を行っていませんが要望があれば必ず解決しております。個人の事情、プライバシーの問題が無いかぎり地域の支えあいを行いたいと思います。その際の相談窓口としての機能と役割をお願いします。
- ・各特別出張所ごとに、ボランティア養成やボランティア情報が得られるような仕組みを作ってはいかがか。蒲田のボランティアセンターだけでは情報が届きにくいのではないかと。特に今まで仕事をしていた人たちは、地域情報を知るすべを知らないケースが多いと思われる。又、各団体の情報を特別出張所や文化センターなどの窓口に置けるようにするのも良いのではないだろうか。

⑤ 居場所・拠点 (18)

- ・気軽に集まれる場所がほしい。ひとり暮らし高齢者が増えていく中でいつまでも健康で「ここに住んでいて良かった」といえるような環境の充実が必要かと思います。
- ・駅に近くて気楽に集まれる広場（部屋）が欲しいと思います。

⑥ 自治会・町会との関係 (16)

- ・自治会・町会があっても、マンション暮らしだと日ごろ何をしているのか分からない。夏になると婦人会の方が盆踊りで揃いの浴衣で踊っていますが、加入するには何が必要なのか、分からないことばかりで、協力の仕方も分からない。又、困ったときに、一時的に子どもや障がい者を預ってくれるショートステイなどが近くにないのは残念です。
- ・自治会活動をしながら福祉活動となりますと、皆さん何かしら重複してお手伝いをされています。イベントも重なることが多いので、同じような取組みを整理していただくと参加しやすくなるのではないかと思います。
- ・現在自治会活動に参加する人は限られ、役員の負担が大きい。活動＝ボランティアということが基本ではあるが、ある程度感謝の意を表わす手段がほしい。民間企業とも連携し、お互いにメリットのある方法を教えてもらえると助かる。活動に対する助成金は大変有難いが、手続きや報告の方法が難しい。自治会活動に関しては、区の出先機関のひとつとして、区の職員を指導員として派遣して、日ごろから関わってほしい。

⑦ 人員 (15)

- ・会員の増が見込めず、又役員や世話役を引き受ける人がなく、高齢役員の固定が続いている。世代間の交流も少なく、地縁的なつながりが希薄になり次世代への地域活動を危惧している。子どもたちのイベントを通じ若い親御さんに接触を図り、話しかけていきたい。
- ・地域活動のリーダーの育成が一番の課題であり、難しい問題です。この課題解決のための行政の支援を望みます。ボランティアでの活動だけでなく一定の人件費を負担して活動する人も今後は考える必要があると思う。このために行政からの支援も必要だと感じる。
- ・現在地域活動は人材不足、リーダー層の減少や活動資金の減少で大変苦勞している。少子高齢化の時代、行政が縦割りに施策を進める事なく区行政が一致団結し、各種知恵と資金を提供して進めてほしい。

⑧ ボランティア団体・NPOとの関係 (9)

- ・アンケートに答えながら「福祉」の範囲の広いこと、大切なこと（どれも欠かせない）を改めて認識した。これを統計処理して、大切な傾向を掴むことを全く無駄だとは思わないが、地域の活動としては意欲を持った人の存在が重要だと思う。こうした人材を発掘してコーディネートするためには、現地に足を運んで実態をよく知る専門職員が必要だ。「大田区全体」では区域が広すぎるので、いくつかのブロックに分けてそれぞれ担当するのがよいのではないか。行政は効率よく進めるためにどうしても縦割りになる。しかし「福祉」が「福祉」にとどまっていたら地域の活力は出てこない。社会教育のサイドから地域ボランティアを育てることも一つの方法だろう。区民大学や学習サークルを盛り上げることも考えてよいのでは。
- ・（無償の）ボランティアが当たり前と思われる発言をされる方もいらっしゃる、活動を継続していくためには、有償・無償の線引きも必要。その線引きの仕方で悩んでいる団体も多いのではないか。特に子ども向けのワークショップやイベントなど、中々参加費を徴収しにくいのが現状。今回アンケートに回答してみて、改めて団体を継続運営していくためのノウハウや資金繰りなど学べる場や情報共有する場があればと感じました。

⑨ 見守り・災害時支援 (6)

- ・地域で生活する一人として、支えあいの重要性を常に思っている。行政は、私どもが生活する場所に24時間いるわけではない。問題は夜に起こることが多いので、地域で話を聞いてくれる人を求めたい。
- ・避難困難者リストをいただきましたが災害時にどう活用できるか、今のところいいアイデアがない。行政ではこのリストをどのように活用するつもりなのかわかりません。当自治会にはひとり暮らし高齢者も多く、果たして災害時にどうなるのか不安です。現状では近隣に住んでいる人がどんな人かわからないので、その方たちが知り合いになる方策をと考えていますが、まだ実行に移せる状況ではありません。今後の課題です。

⑩ 団体の活動 (6)

- ・私どもの会は人づくり、人助けを活動指針としています。福祉という観点での会ではございません。奉仕活動、ボランティア活動を通していかに人間づくりができるかが会のテーマです。家庭教育、心の生涯教育を今後重点的に展開していきますのでぜひ、お力添えください。
- ・今回の調査の対象（1ページ目の団体）にシニアクラブは「その他」の扱いになっています。高齢化はどんどん進み、60代の若き高齢者が続々誕生する中で、シニアクラブの存在、活動にはその意義を見直し、又、相応の期待をすべきかと考えます。

⑪ その他 (14)

4. 民生委員児童委員調査

(1) その他

※調査結果で「その他」の回答が5%以上のものについて、代表的な記述を掲載した。

問6 地域住民からの相談方法

- ・見守りや書類等の配布のために、対象者宅を訪問したとき
- ・近隣住民からの相談
- ・地元の医院の先生
- ・学校、児童館、保育園

問14 民生委員児童委員の活動のPR状況

- ・シニアクラブの総会に出席する。
- ・児童館でのお手伝い、小中学校の入学・卒業式などの機会に。
- ・防災訓練や高齢者フェスタ
- ・地区まちづくり協議会
- ・子育てサロンなどの自主活動のとき
- ・自治会の高齢者サロン（月1回集会）

問17 民生委員児童委員以外で参加している活動

- ・学校地域支援本部
- ・子ども見守り活動
- ・公園清掃、防犯パトロール
- ・消防団
- ・子育て支援員

(2) 自由意見

※主な意見について掲載した。分類の()内は該当する意見の件数である。

① 行政への要望 (25)

- ・何か問題が生じた場合、各機関に相談してもその返事がない場合が多い。その後の展開が気になるので、なるべく結果だけではなく、経過も報告してほしい。
- ・民生委員の仕事をもっと皆に知らせてほしい。高齢者、子どもと幅広く関わらなければいけないので行政の力が必要である。

② 情報・相談 (19)

- ・高齢の夫妻、ひきこもりの子と親など、我々には情報がなく、普段面倒をみている家族が入院したりしたときに残された人のケアができない。個人情報保護がネックになっていると感じる。
- ・最近、民生委員として高齢者宅などを訪問すると受け入れてくれる方が多くなった気がします。区報などに載っている福祉サービスについて質問される方が増えてきたように思います。明確に答えられるように勉強しておかなければと思っています。福祉関係の情報は繰り返し広報して、目にとまりやすくすると思います。
- ・子育て支援の必要性を感じているが、支援のためには支援を必要とする対象者の把握が欠かさない。訪問の機会を設けるためにも、新生児家庭の情報を民生委員に提供してほしい。

③ 高齢者 (24)

- ・今年民生委員になったばかりでまだよくわからないのですが、ひとり暮らしの人の家に訪問して話を聞いてあげたい。初めての訪問で、何回も「ありがとう」「今度はいつ来ますか」と言われ、また訪問したいと思いました。月例会に参加していろいろ勉強して講演会もたくさん参加したいです。
- ・現在、ひとり暮らし高齢者については登録を呼びかけ、登録した人にはさまざまな施策が進められている。しかし高齢化が進んでいるため、夫婦共に高齢者、高齢の親子など、支えきれていない。見えないところで支援を必要としている方が多数いらっしゃることを感じている。個人情報保護のため埋もれている情報もあり、もどかしさを感じることもある。地域には支援を求めている(求めるすべを知らない人も含め)人がいて、支援する力や時間を持っている人もいるはず。ここがうまくつながると、生きやすくなっていくのではないかと思う。自分自身の力不足、情報不足も感じているので、現状や施策、方法などを知る研修などを取り入れてほしい。

④ 地域住民との関係 (21)

- ・地域での活動にもっと参加しやすい仕組みを作ってほしい。あまり堅苦しくなく、自然に入れるような会の運営の仕方などを考えてほしい。
- ・私のまちでは、地域住民が日常に集える場所づくりを始めています。そこに常設の「まちの生活相談室」を新設する計画を進めています。地域の住民が気軽に集える場、気軽に相談に訪れる場が必要と考えます。もし、児童館の使途変更などが行われることがあるならば特別出張所ごとに1カ所、そのような施設をつくっていただきたい。

⑤ 子育て (13)

- ・高齢者への福祉の向上はもちろん大切だが、将来の日本を背負う子どもの間に経済的な格差が広がっていることは、民生委員児童委員は研修を受ける機会もあるので確かな知識として持っている。しかし一般的には身近に感じられない場合も多い。自治会・町会などでも子どもの貧困問題の知識を共有する機会を作って、子ども中心の行事などを通じて子どもが親以外の大人と接することの大切さを広めていけたらよいと思っている。
- ・最近子どもたちが元気に外でのびのびと遊ぶ場所が少なくなっているような気がする。公園では「〇〇禁止」の立て看板や注意書きが多い。昔のようにAちゃんはその家の子、Bちゃんはその家の子みたいに何気なく見守りができたらいいなと思う。また、健康寿命を伸ばすため、格安なジムで高齢者向けの体操ができる場所や、指導者確保をお願いしたい（それによって医療費が少なくなるのではないかな）。

⑥ 担い手・人材 (14)

- ・責任者の世代交代が難しい。
- ・民生委員児童委員が高齢化しており、活動が不活発になりますので、委員の若年齢化を考え、企業退職者を当てにせず、現職をこなしつつボランティア活動を進んでやっていただける人材を確保する方策を考えてほしい。福祉教育を学ぶ学生にも民生委員をやれる体制を考えるべき。

⑦ 民生委員の役割・組織のあり方 (14)

- ・私自身が民生委員の新人ですが、民生委員になる前も漠然としたイメージしか持っていませんでした。身近な者として感じられるよう、もっとPRなどの努力が必要だと思いました。
- ・ご近所でもお付き合いが減る時代となり支えあいが成り立つのか？と行ってしまいます。昨年12月から民生委員となり初めて訪問したお宅で「私たちの税金で給料払ってるんだからちゃんと仕事しなさいよ」と言われたときには、引き受けたことを後悔しました。行政へは民生委員の説明をしっかりといただきたいと心よりお願いいたします。今後勉強していく中で疑問が浮かんだときにこの内容の質問は？と悩まないで問合先を1ヶ所にしてくれればと思います。行政に電話をすると「それはこちらではありません」と言われ、教えられた所へ電話すると「違います」と言われてしまうことが少なくありません。

⑧ 見守り・災害時支援 (12)

- ・私の住む地域の町会では、毎週月曜の午後、小学校の下校時に8人の役員が二手に分かれてパトロールをしております。そこで子どもたちに「気をつけて帰ってね」と声かけをしております。又、パトロールしながら、ひとり暮らしの方がここに住んでいるとか、ここには障がいのある方が住んでいるなど情報を蓄積し、そのような中でひとり暮らしの方が体調が悪くなったときには、一筆箋にメモを書いてポストに入れております。
- ・守秘義務がある中、近隣の方から協力を得ることが難しい。特に本人が支援やサービスを拒否されている場合、見守り活動に負担を感じる時がある。

⑨ 居場所・拠点 (12)

- ・民生委員と行政、関係機関との顔の見える関係づくりが大切と思う。そのためには地域の課題を一緒に考えられるような場を作ることができればと思う。地域の企業なども参加してもらえそうな仕組みができればよいと思う。

- ・核家族化、人間関係の希薄化によって自分たちの住むまちにどんな人々が住んでいるのか全くわかりづらくなっている。住民の孤立によって悩んでいる人も多いと思われる。老若男女を問わず触れ合う場、交流の場があったらと思います。地域住民がわかりあえば、自然と助けあい、共助が生まれるのではと思われます。シニアステーションと固定化するのではなく、どんな世代も利用できる場所がぜひともほしいです。

⑩ 他団体との関係 (7)

- ・個人情報保護法が施行され、何でも教えてはいけない、知られてはいけない錯覚に囚われ、民生委員児童委員以外に情報提供を拒む人もいる。地方とは違い、都会に暮らす私たちにとって、昔は向う三軒両隣などと遠い親戚よりも親しい存在だったが、今では誰が住んでいるのか、何が起きているのか分らない。まして、ひとり暮らし高齢者など、名簿を預かっている人たち以外に関しては把握するのが非常に難しい。自治会・町会の班ごとの役員（毎年交代する）に協力してもらうことはできないだろうか。

⑪ その他 (17)